

教育ひょうご

発行所 神戸市中央区中山手通4丁目10-8
兵庫県教職員組合
発行人 兵庫県教職員組合 代表者 森戸卓也
編集人 松浦明日香
電話 050(3538)2346
1部15円 年定価360円
(組合員の購読料は組合費の中に含む)

2026/6・15
No.2142

協賛金賛同者募集
日政連 古賀ちかげ参議院議員



ピースアクション2026

5・15 沖縄平和行進



沖縄が日本に復帰して54年。1978年から始まった「5・15 沖縄平和行進」は、沖縄の内実を知り、基地のない平和な沖縄を全国に訴えるため、毎年実施されている。今年も、嘉手納基地コース(12・2キロ)と普天間基地コース(11・7キロ)にわかれ、ゴール地点の中頭郡北谷町のAgrestajam北谷へむけ行進した。Agrestajam北谷では、「復帰54年講和74年」第49回「5・15 平和とくらしを守る県民大会」が開催された。平和行進および県民大会には、県内外から約2,300人(主催者発表)が参加した。兵教組からは、平和運動を次世代に継承するために、日教組および平和フォーラム加盟組織として、青年部が参加した。

「平和のスタートはここから」



三木市教職員組合 竹内勇哉さん

沖縄の米軍基地周辺を歩く平和行進に参加し、教科書だけでは見えない住民の重い基地負担を直接

確認することができた。実際には住宅地や学校が広がっており、見上げると戦闘機の凄まじい轟音が響き渡る。この日常的な騒音や事故への不安の背景には、県民の4人に1人が命を落とした悲惨な沖縄戦と、戦後の米軍統治下で土地が強制接収された歴史がある。その後、私たちは平和学習のために平和記念公園を訪れた。そこで犠牲者の名が刻まれた平和の礎に触れた時、戦争は単なる数字ではなく、一人ひとりの尊い人生を奪うものなのだと思いが胸に迫る。

平和は決して当たり前ではない。だからこそ、体験者の声を直接聞ける最後の世代として、歴史の重みを周りに伝え、一人ひとりが平和について考え続けることが私たちの使命ではないだろうか。



日教組から参加した青年部一同

「沖縄の問題は日本に住む私たちの問題」



洲本市教職員組合 岡本琴奈さん

普天間基地の周辺、約12キロを全国の仲間とともに、シブレットヒコールをあげながら行進をした。道路を挟んで右も左も米軍基地という場所があれば、米軍基地と学校が道を挟んでむかい合わせの場所もある。これが今回歩いたコースだけでなく、沖縄各地にある風景である。

沖縄平和行動に参加し、このような風景を見るたびに、「沖縄は日本に復帰したと言っているのか」という思いが強くなる。日本に復帰して54年になるが、沖縄に住む人々は戦闘機やヘリの爆音と危険にさらされる日々や、米兵による事件・事故は地位協定によって正しく処理されないという不平等が未だにあるからである。この現状を解決するためには、沖縄に暮らす方々だけでなく、日本に住む私たちがこれからも声をあげていく必要がある。そのためにも「沖縄の問題は日本に住む私たちの問題である」ということを、子どもに伝えていくのが私の使命である。強く思う機会となった。



「教職員の未配置」という学校現場の根本的課題解決にむけて

兵政連議員

小西ひろのり議員 一般質問



6月8日、第371回定例会で小西ひろのり県議会議員が一般質問に立ち、子どもの学習権の保障と教職員の未配置問題の解消にむけた取り組みについて質問した。(要旨抜粋)

○小西ひろのり

教職員の未配置問題が大きな問題となつて少なくとも5年が経過している。毎年のように年度はじめには「先生が足りない」という信じがたい状況が発生し続けている。子どもや保護者からの不安を訴える声は後を絶たず、子どもの学習権の保障を脅かす重大な問題にもなっている。年度当初における「学級担任」の未配置はほぼなくなったが、(産育休・病気休暇等で年度途中から休む方の代替教員が見つからず)加配教員の未配置は、依然として大きな課題。年度途中から更なる未配置が増加している。また、兵庫県における学方向上策の一環として打ち出している「兵庫型学習システム」(小学校教科担任制、中学校少人数授業等)における教員の未配置が改善されず、子どもや保護者から不満や不安の声が多数出ている。必要な教職員が配置されていないことで、教科担任制や少人数授業の推進計画など、結果的に子どもの学習権の保障にも大きな影響を与えている。更には、子どもにとって学校が魅力ある場所だけでなく、学校に行きにくい子どもが増えている要因のひとつとして考えられるのではないかと。 「教職員の未配置」という学校現場の根本的な課題解決に至っていない現状を踏まえ、一定の経験のある臨時的就職教員を正規採用することをはじめとした採用試験の抜本的な見直しも含め、今後のとりくみの方針や方向性について当局の所見を伺う。

○木村教育長

代替教員不足対策について、産育休取得を見越した先読み加配の活用において、本年度から可能となった正規教員配置に加え、緊急時の会計なっている。あわせて、ペーパーティーチャー等支援講座の実施や退職教員への働きかけなどにより講師登録人材バンクの充実をはかり、教育活動に支障が生じないように努めている。これらのとりくみにより、増加傾向にあった教員不足数は、25年度に減少に転じ、本年度もさらに一定の改善が見込まれている。一方でご指摘の通り、兵庫型学習システムにおいて教員不足により、教科担任制や少人数授業が十分実施できていない学校があることは承知しており、教員確保に一層とりくむ必要があると考えている。

○小西ひろのり

このため、教員採用試験では、臨時講師の経験年数により一次試験において加点、一部免除や全部免除を措置するなど、即戦力確保にむけたとりくみをすすめている。今後とも市町教育委員会と連携をし、代替教員の確保と安定的な教員採用を着実にすすめることにより、子どもたちが安心して学べる教育環境の実現にとりくんでいく。

○小西ひろのり

臨時的任用教職員の更なるモチベーションのアップも含めて検討いただければと思う。教職員の未配置問題に関して、新しい学習指導要領においては、多様な性の包摂が掲げられようとしている。「どの子どもも安心して学校で生活できる」という理念には賛同する。しかし、その理念を実現させるための体制整備により、更に人材不足にならないかと懸念する。また、学校は教員だけではなく、学校事務職員をはじめとするさまざまな職種専門家で構成されている。近年の学生の就職事情を鑑みると、公務員志望が減っている。民間の就職を先に決めてしまいがために、教職員の採用を取り巻く現状が非常に厳しくなっている。これは国にもとめるべきことではあるが、業務量削減、子どもや保護者へのきめ細やかな対応が求められる現状に対し、教職員の数があまりにも少なすぎないか。採用数を増やすこと、業務の見直しや削減を更にすすめることで、魅力ある職場環境づくりにより少しでも寄与していただくようお願いしたい。



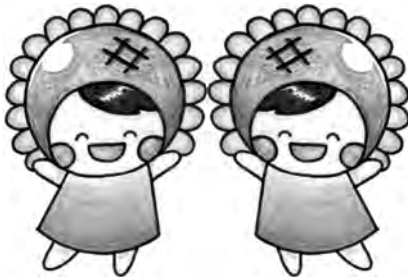
「兵庫県教職員組合 教育文化・社会貢献事業」の充実、発展にむけて 皆さんのご理解、ご協力をお願いします

協賛金 賛同者募集!

組合員をはじめ、
すべての教育関係者の協力を!

「兵庫県教職員組合教育文化・社会貢献事業」は、3,400人を超える教職員をはじめとする「協賛金」賛同者カンパ等の協力により、2025年度も子どもたちへの就学支援等の社会貢献事業を実施することができました。このとりくみは、多くの教育関係者をはじめとする県民のみならずのご理解・ご協力を得て、事業が継続されています。48年目を迎えるこの事業の趣旨およびこれまでの経緯をふまえ、今後も「教育文化・社会貢献事業」の充実と発展をめざしていきます。引き続き、フィランソロジーの理念にもとづき、この事業に対するご理解と「協賛金」カンパのとりくみにご協力をお願いします。

「教育文化・社会貢献事業」とは?
経済的に厳しい生活環境にある児童生徒への就学支援をおこない、かつ県内の教育研究を助成するとともに、教育および文化の発展に寄与し、フィランソロジー（社会貢献）の理念の普及、県民福祉の向上をはかるものです。



主におこなっている事業

- ①兵庫県内の公立小中学校、義務教育学校、中等教育学校および特別支援学校（養護学校）等に在学する児童生徒に対する支援
- ②教職員の教育力量を高めるための研究助成
- ③県民の教育および文化の向上と教育改革県民運動発展に対する助成
- ④県内の福祉団体等への助成
- ⑤その他、目的を達成するために必要な事業

「協賛金」は1口500円からです。

手当受給者 主幹教諭 … 1か月につき、5口2,500円以上

手当受給者 以外の教職員等 … 1か月につき、1口500円以上

退職教職員・管理職等にも広く協力を呼びかけよう。

引き続き、皆様のご理解とご協力をお願いします。
※詳しくは各地域組合書記局へお問い合わせください。

日政連議員

古賀ちかげ議員が、教育現場の課題を訴える!



4月16日参議院文教科学委員会、5月11日参議院決算委員会にて、古賀ちかげ参議院議員が質疑に立った。文教科学委員会では、教職員不足、臨時採用教職員の辞令や勤務条件の説明等について、質問した。また、同じく日政連議員の齊藤嘉隆参議院議員が質疑に立ち、教職員の休憩時間の確保、奨学金事業等について訴えた。決算委員会にて、古賀ちかげ議員は、不登校の子どもへの支援制度、教育予算の増額、60歳以降の教職員や退職教職員の給与の見直し、幼稚園教員の処遇改善等について高市内閣総理大臣、松本文部科学大臣等に訴え、考えを質した。ここでは、定年延長で働き続ける教職員の実態に触れた、退職者の処遇への質疑を掲載する。

(要旨抜粋)

退職教職員の給与制度

○古賀ちかげ
学校現場では教職員が不足している。政府は志願者が増えるよう施策を講じているが効果がない。志願者ではなく、退職者（定年延長者に働き続けてもらうため）の給与（公務員制度により7割、月約10万・年間約200万減）を見直すべきではないか。

○松本尚国家公務員制度担当大臣
7割措置は、法律上、当分の間とされている。人事院の検討状況をふまえ、2031年3月31日までに所要の措置を講ずるとされている。これは2018年のデータで、既に10年経っている。民間の給与実態等も順調に上がっている。調査と検討を加速するよう人事院にお願いしていく。

○古賀ちかげ
学校現場に7割で働ける仕事はない。はじめは専科や担任外での勤務となっても、病休などにより常態化する欠員に対し、退職者も担任に押し込まれていく。定年延長だが責任はより重く、同じ仕事でも給料は減り、モチベーションは維持しづらい。だから辞めようという人がいっぱいいる。教職員には人材確保法がある。当分の間でもいいから、この7割をアップしていく手当ができないか。

○松本洋平文部科学大臣
国家公務員の給与水準について、動向を注視している。給与制度は、公務員全体に共通するため、どのように対応できるのかということ。優れた人材を確保するため、教職員の処遇改善をすすめることは重要。給特法を改正し教職調整額率の引き上げなど、処遇改善をすすめている。これは定年延長の退職者にも適用されるが、文教科学委員会でも同様の指摘を受けている。引き続き、教育に関する専門職の教員にふさわしい処遇改善に努めてまいりたい。

○高市総理大臣
教員の処遇改善は重要なこと。ただ、政府としては人事院の検討を待つ必要がある。定年の段階的引き上げの進捗もふまえ、民間企業の給与実態などに関する調査や検討を加速していただきたいと強く思っている。その上で、法律において、国家公務員の給与水準を定年の前後で連続的なものとするのがもとめられており、人事院の検討をふまえ、教育公務員の人材確保にも資するように、政府としては適切に対応していく。

(一財) 兵庫県学校厚生会

0歳から楽しめる♪ テレビや映画で耳にしたあの曲を ♪

栗コーダーカルテットコンサート

- ・帝国のマーチ (ダース・ベイダーのテーマ)
- ・小組曲「ピタゴラスイッチ」
- ・君はともだち ほか

日時・募集人数・会場

9月12日(土) 開場:13時 / 開演:13時30分
但馬会場:和田山ジュピターホール (800名)

9月13日(日) 開場:13時 / 開演:13時30分
明石会場:明石市民会館 中ホール (450名)

対象:全会員とその家族

会費:大人 (高校生以上) 800円
子ども (3歳以上~中学生以下) 400円

※3歳未満は保護者1名につき1名膝上無料

ただし、席が必要な場合は有料

※10月給与(口座)引去り

締切日:8月2日(日)



リコーダーや鍵盤ハーモニカなど、楽器を持参すると一緒に演奏できる時間があります♪楽器がなくても、もちろんOK!!

生演奏ならではの温かな響きを、ぜひ会場でお楽しみください

詳細・申込み
はこちら▶▶



※申込多数の場合は、抽選となります。